

2025 年 04 月 01 日 制定

「CI-NET 利用サービスに関する手引き」のうち『3.試験』に係る方法について

本資料では、「CI-NET 利用サービスに関する手引き」の『3. 試験』において、具体的な方法を提案する。

なお、試験は、「CI-NET サービス」と「CI-NET 限定型サービス」において対象範囲が異なる。CI-NET サービスでは、適合性試験と相互運用性試験を実施、CI-NET 限定型サービスでは、適合性試験のみを実施する。

1. 試験内容と範囲

試験内容は、CI-NET LiteS 実装規約の情報表現規約を対象とした適合性試験、CI-NET LiteS 実装規約の情報伝達規約を対象とした相互運用性試験の 2 つあり、CI-NET サービスと CI-NET 限定型サービスで試験範囲が異なる。

各 CI-NET 利用サービスと試験項目の可否判定は以下のとおり。サービス開発者は、試験を実施した後、情報化評議会に実施結果を報告する必要がある。

なお、各試験で対象とするメッセージの範囲は、発注側企業の事例を記載しているが、受注側企業も同様の考え方で試験を行う。

表 1 CI-NET 利用サービスと試験項目

CI-NET 利用サービス		試験項目	
		適合性試験	相互運用性試験
① CI-NET サービス	⇒	合格が必要	合格が必要
② CI-NET 限定型サービス	⇒	合格が必要	無し

※相互運用性試験は、既に実績のある CI-NET 利用 サービスの ASP サービス事業者(1 社以上)と行い、これに合格することで、パッケージシステムおよび EDI ツールとの試験を代替する。

2. 適合性試験

適合性試験は、各メッセージのデータ項目が情報表現規約に準拠した形式であるかを検証するために行う。

2.1 基本事項

(1) 対象範囲

- 適合性試験では、サービス開発者が CI-NET 利用者に提供を行うメッセージを対象に試験すること。

(2) 確認範囲

- サービス開発者が提供するサービスで以下の項目が適切に授受できるか確認すること。
 - 情報表現規約に準拠したデータ項目のセット情報
 - 企業識別コードおよび CI-NET 電子証明書が使用されたメッセージ

(3) 試験環境

- ① サービス開発者は、試験環境(送信用端末、受信用端末)を準備すること。
- 1) 試験に利用するにはサンプルデータとしてインタフェース・ファイル(業務システムと CSV インタフェース機能との間で、送受信に受け渡しを行うファイル、.INF、.DAT ファイル)を CI-NET 事務局が用意し、CI-NET サービスに関する適合性試験チェックシート①および②(以下「適合性試験チェックシート」という。)を用いること。

(4) 費用

- ・ 費用はサービス開発者が負担すること。

2.2 実施方法

以下の実施方法を参考として、サービス開発者内で適合性試験を実施する。

~~①—CI-NET LiteS 実装規約に規定されている情報表現規約の定義を確認して、開発しているかを確認する。確認結果は、適合性試験チェックシート①に記載する。~~

~~①~~

~~②—データ項目定義のセルフチェック~~

~~③—CI-NET LiteS 実装規約に規定されているデータ項目定義に適合しているか検証する。検証結果は、~~

~~④②適合性試験チェックシート②に、①の結果を記載する。~~

3. 相互運用性試験

相互運用性試験は、サービス開発者と既に実績のある CI-NET サービスを行う ASP 事業者(1 社以上)との間の送受信試験において、各メッセージが CI-NET LiteS 実装規約に準拠した形式で適切に疎通可能であることを検証する。

3.1 基本事項

(1) 対象範囲

- ・ 相互運用性試験では、サービス開発者が CI-NET 利用者に提供を行うメッセージを対象に試験すること。

(2) 確認範囲

- ・ サービス開発者が提供するサービスで以下の項目が適切に送受信できるか確認すること。
 - ① メッセージグループヘッダへのセット情報
 - ② メッセージへのセット情報
 - ~~③ 契約業務のメッセージにおいて、CI-NET 電子証明書による電子署名付の~~

~~エクスポートファイル~~

~~※CI-NET LiteS 実装規約 Ver.2.2 ad.0 指針・参考資料 P.307 参照~~

④③暗号化・復号

※CI-NET LiteS 実装規約 Ver.2.2 ad.0 P.27(ebMS の場合、P.47)参照

(3) 試験環境

- ① 相互運用性試験では、サービス開発者(発注側のシステム)と受注側のシステムが接続試験の相手方となり、接続試験を行う。そのため、接続試験の相手方は、サービス開発者からの依頼を受けた既に実績のある CI-NET サービスを行う ASP 事業者が実施する。
- ② サービス開発者は、接続先の環境を除き、相互運用性試験の試験環境を準備すること。
- ③ 試験に利用するはサンプルデータ(.INF、.DAT ファイル)を CI-NET 事務局が用意し、CI-NET サービスに関する相互運用性試験チェックシート(以下「相互運用性試験チェックシート」という。)を用いること。

(4) 費用

- ・ 費用はサービス開発者が負担し、相互運用性試験の接続先として依頼を行う ASP 事業者とも自ら協議の上、決定すること。

3.2 実施方法

- ① 接続先の CI-NET サービスを行う ASP 事業者相互運用性試験を依頼する。
- ② CI-NET サービスを行う ASP 事業者とサービス開発者の間で、CI-NET LiteS 実装規約に準拠したメッセージの送受信が可能か検証する。

以上